



ユーモア2 榎本栄次

世光教会では、礼拝が終ると毎週青年たちが近くの国立病院の入院患者にその日の週報450枚ほど配って回っていた。私もその仲間に加えてもらっていた。一つの宗教が公立の病院に入るのは禁じられていたが、どういう訳か世光教会には許されていた。その代わり下足の整理の手伝いを進んでやっていた。週報は、その日の説教要旨と聖書の話などが印刷されたガリ版B5わら半紙4ページものである。配っている私自身がよく中身を理解していなかった。喜んで受け取ってくれる人もいるが、要らないと断られるところもある。

この部屋は入りたくないところだった。鬼瓦のような顔で背中いっぱいに入れ墨をしている。一見してやくざ屋さんだとわかる。怖い兄さんが横に2, 3にいた。何か言いがかりをつけられたら大変と、目を合わさないようにしてそそくさと部屋を出ようとする。「ちょっと待った」と声がかかった。しまった。なんか言いがかりをつけられる。どうせ暇つぶしにいじられるのだろう。うまく切り抜けねば。

「ここに書いてあることほんまか」

何のことだろう。何か間違ったことが書かれているのだろうか。それに文句をつけようとしているのだろう。

「はい。何がですか」

「何がて、ここに書いてあることや。どんな罪も許される、て書いてあるけどほんまか」来た来た。罪人が許される。どんな悪いことやっても許される。そのことだった。

そんなわけないだろう。うそを書いている

のか、という言いがかりに違いない。

「はい。そうですよね。私は学生で詳しいことはわかりません。今度牧師に聞いてきますのでちょっと待ってください」こう言うのが精一杯であった。

「牧師でなくてええ。兄ちゃんてええから話聞かせてくれ。まあここに座れや」やっぱり、なにか文句をつけられるのだ。子分が椅子を勧めてくれた。

「長谷川長吉」という名札がかかっている。痩せて土色の顔で目だけが光っている。

「罪が許される、ってどういうことや」聞いて知っていることを言うしかない。確信はないが、思い切って喋ってみた。

「イエス・キリストは私たちの罪のために十字架にかかって死なれました。だからどんな人も許されます。身代わりになったのです。それを贖罪といいます」。

「ほんまか。わしも許されるのか」真剣に聞いてきた。このやくざの親分はどうやら私を冷やかしたり、いちやもんを付けたりしようとしているのではないらしい。

「ほんまか、と聞かれても良くわかりませんが、いつもそう聞かされています」

実際牧師はいつもそういう説教をしている。時にはそう言って泣き出すこともあった。会衆もそれを見て涙するのであった。ただ私はよくわからなかった。そのことについては劣等感のようなものがあつた。「ほんとうか」と聞かれてもはっきりと「ほんとうです」とは言えない自分が情けない。聞いて知っていることをただ伝ただけ。ところがどうしたことか、私の話を聞いてこの鬼瓦の目から涙が流れている。 つづく

おさそい

・聖書を一緒に読みましょう

座長 榎本栄次(牧師)

日時 4月12日(木) 13:30—16:30

5月10日、6月7日、7月5日

・新渡戸稲造の平和

—宗教と戦争を考える—

講師 佐藤全弘(大阪市立大学名誉教授)

日時 4月21日(土) 13:30—17:30

・東アジアの平和と和解

—近代日本人のアジア認識と

平和の取り組みの可能性—

講師 山本俊正(関西学院大学商学部教授)

日時 5月12日(土) 13:30—17:30

投稿

京都俳句きらら会他 俳句と短歌

- | | |
|------------------------------------|--------|
| ・雪分ける大仙仰ぎ米子道 | 小久保枯骨 |
| ・静かなり雪の山里機の音 | 富永一研 |
| ・霜柱陽が降り注ぎ土柔し | 久保海楽 |
| ・リハビリの階段登りゃ春の雪 | 橋本星児 |
| ・梅真白案じてくれる友のみて | 松野洋子 |
| ・赤鬼や役目を終えて父の顔 | 佐々木公女 |
| ・水仙の縁取り細き疎水かな | 松本茶香 |
| ・薄氷葉を閉じ込めた版画かな | 佐々木小次郎 |
| ・枯芒しきりに山の風さわぐ | 原 岳 |
| ・如月(きさらぎ)の夕べを祝う50年
きららの坂に早瀬のひびき | 榎本虚舟 |

なんどきですか

・菜の花が咲き匂う頃、セミナーハウスの周りは春間近がいっぱいです。

・2月12日にセミナーハウス50周年感謝会が持たれました。創立以来ハウスの活動に関係くださった多くの方々に集まっていただき、楽しいひと時が持てました。

・米朝対話が成功しますように。アジアに戦争と緊張ではなく対話と平和が実現しますよう祈ります。

・平和憲法を守りましょう。憲法改正の動きに抗して改憲反対の署名運動、3000万筆が目標が全国で始まっています。わたしたちもこの運動に参加したいと思い、京都と滋賀のキリスト者で3000筆集めたいと思います。一人でも多くの皆様のご協力をお願いします。只今100筆。

関西セミナーハウス活動センターへの賛助・寄付金

2018.1.31-2.28 順不同・敬称略

宇井 裕美、上田 圭子、藤田 俊文・恭子、金山 顕子、荒木 真実、神保 正男、竹中 百合子、榎本 栄次、柳井 一朗、只野 哲、鳥井 清司、野田 純一、楓林会、旧職員有志、上林 順一郎、黒岩 裕二、堀部 丈司、島田 恒、早稲田奉仕園、中上 和子、ハッチャー 保子、奥田 豊、中村 信博、日本基督教団京都復興教会、中西 綾子、安野優美、南和子、津田昭二、河合良子、多田出佳代子、米澤敏子、佐々木公子、君村千代子、山本良昭、藤本和子、廣瀬芳之、無名氏、山添 みどり、キリスト教愛真高等学校、徳丸延子、日本基督教団平安教会、匿名、和田野勢津子、有志、浅田 凉子

ありがとうございました。

関西セミナーハウスの四季だより

「梅よ桜よ、春よ来い」

♪春は名のみ 風の寒さや 谷の鶯 歌は思えど♪(「早春賦」)

「春は名のみ」は「立春(2月4日)を過ぎているのに」とう意味らしい。鶯も「早く咲いてよ」と、花のステージのトレーニングに余念がない。まさに今のセミナーハウスも体感的には日差しが待ち遠しい、肌寒い日々が続いています。しかし、敷地内を歩いていますと、すっかり葉を落とした木々の枝からつぼみが出て、梅の木などは花芽がもうすっかり膨らんでいるものがあります。万葉集には

『梅の花、咲きて散りなば、桜花、継ぎて咲くべく、なりにてあらずや』(薬師張氏福子)とあります。梅が咲き始めると、すぐその先にバトンを渡された桜が満開になる。

梅の花も待ちどおしいけれど、その先の桜にも想像を膨らませ、色鮮やかな春を待ち焦がれる日々になっています。まもなく息をのむような満開の桜を楽しめるセミナーハウスとなります。

館長 久保田展史